図書館利用者専用の本紹介スペース

県立図書館などの図書館は、非常に多種多様な本を数多く保管している。しかし我々利用者の多くは自分の専門の本や気に入った本のみを主に読み、他領域の本をあまり読まないため、新しい価値観や知識、アイデアに出会うことが少ないのではないかと感じる。

このような問題を解決するために、私はこれからの時代では利用者自身が情報を提供しあうことが重要であり、それにより気楽に新しい本や知識に出会うことができると考える。

そこで私は県立図書館の利用者専用の、本の紹介スペースを設けることを提案したい。

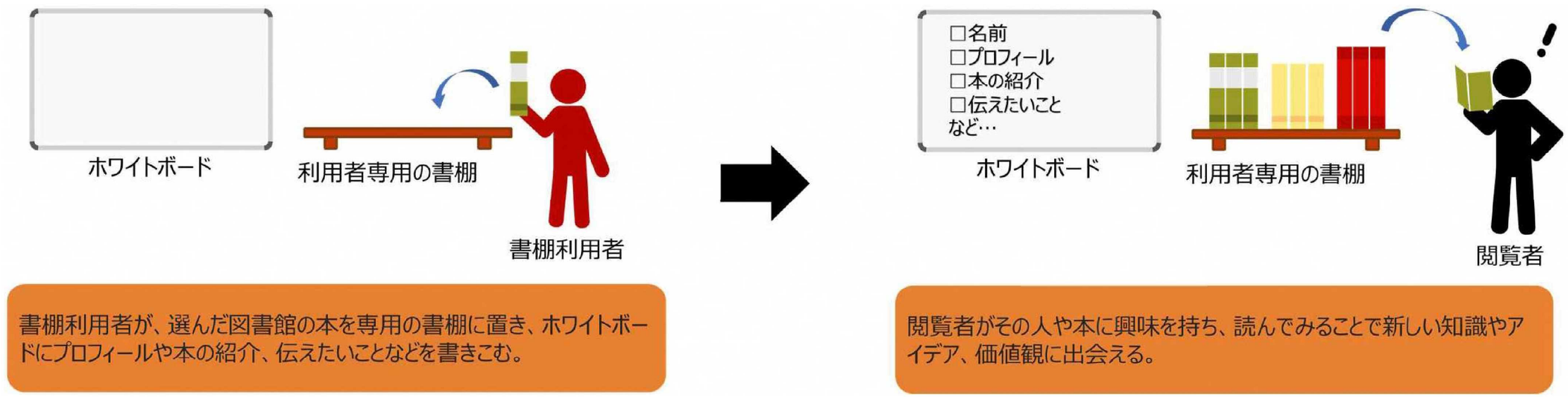
本棚とホワイトボードをいくつか用意し、本棚には自分の選んだ図書館の本をそこに入れ、ホワイトボードには自分の名前、プロフィール、本の紹介、伝えたいことなど、書きたいことを書き込んでもらい、閲覧者がみることができるようにする。数週間後に本などを片付け、別の人が利用できるようにする。

このような本の紹介スペースを設ければ、多様な価値観、経歴を持った幅広い世代の人々が書棚を利用することができ、それに興味をもった閲覧者がより新しい知識、アイデア、価値観に出会うことができると期待できる。例えば、大学生・大学院生、研究者なら自分が研究しているテーマを集めた本や、入門書などを紹介できるし、経営者ならマネジメント本や自己啓発書を紹介できる。紅茶が好きな人なら紅茶の歴史が載った本やティーカップの本などを紹介できる。このように、さまざまなバックグラウンドや専門性を持った図書館利用者が好きな本の紹介をすることで、閲覧者が今までよりも興味深い本に出合うことができるだろう。

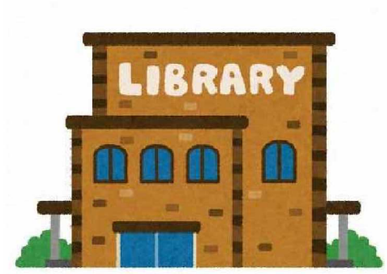
現在、新しい県立図書館の計画案として、図書館利用者が交流できるスペースを整備しようと考えられているが、この本の紹介スペースをそのような場所に置けば、本棚利用者と閲覧者が話し合うことができ、県民の交流がさらに深まると考えられる。

この案の欠点としては、利用者が書棚を利用できるのは数週間だけであることだと思う。それを改善するためにホワイトボードに書かれた紹介文を電子化してまとめて、閲覧者がいつでも見ることができるようにするのも良いかもしれない。

現在は図書の電子化が進み、図書館の存在が危ぶまれているかもしれないが、私が思う図書館の大きな強みは、ランダムで偶然的な出会いがあることである。ランダムで偶発的な本との出会いや交流によって人間は育まれ、生涯にわたって成長できる。私は以上のような案によって、そのランダムな出会いをさらに増やし、多くの図書館利用者が県立図書館を拠点に学習できればよいと考える。



「ウィズコロナ、アフターコロナ時代に対応しつつ、新しい県立図書館が（で）できること」



テーマ：すべての県域にサービスを

対象：身体障がい者、外国人、中高生など

アイデア：

・図書配達サービス（利用者能動的郵送サービス）

HP、電話、FAXにより予約

ゆうパックなどで郵送（貸出時の費用は図書館負担もしくは着払い、返却時の費用は利用者負担）

返却は来館、郵送もしくはポストでも可。ポストは図書館のほか駅や公民館、ショッピングセンターにも設置

行政、郵便局に協力してもらう（料金割引等）

貸出、返却専用の袋を使用する

これらの旨は図書館の掲示板とHPに提示する

（サービスにあたって、本の内容を利用者が把握するために）

・図書館に来館する場合

それぞれの本にQRコードを付け、スマホで読み込むことで書誌情報と目次、あらすじなどを表示

HPで予約　自動貸出機で予約

・図書館に来館しない場合

OPACを閲覧

・希望者別図書郵送サービス（利用者受動的郵送サービス）

郵送のシステムは上記と同様

特定の日に図書を利用者の希望する場所に郵送し、暮らしに役立つ情報の提供、継続的な学びの支援をめざす

貸出冊数は1～3冊、貸出期間は2週間

1ヶ月で1巡（週で分ける、曜日で分ける）

希望方法は、利用者カード制作時に申請する　もしくはHPからログインして申請する

リクエストを積極的に募集する　SNSやHPにリクエストボックスを設置、葉書での受付（利用者の声はサービスに反映）

サービスと連動して図書館にも一定期間特設コーナーを設置する

（サービスの具体例）

Ex)第1月曜日　子育て応援day　→育児の本、絵本

第1木曜日　文化を尊ぶday　→日本文化、世界各国の文化を紹介

第2月曜日　長生きしましょうday　→脳トレ、筋トレ、食生活の本

第2木曜日　ヤングアダルト day　→小中高校生向けの本

第3月曜日　英語を学ぼうday　→英語の絵本、小説

第3木曜日　スポーツに親しもうday　→スポーツ選手の著書、各スポーツの歴史

第4月曜日　日本文学を楽しもうday　→小説、詩集

第4木曜日　自分磨きday　→自己啓発本

＋α　定めた日に講座や読み聞かせを行なう

（会議室、zoomなどを利用したリモート配信、動画を録画し配信、YouTubeの限定公開で教材DVDを限定配信）

Ex)利用者がジャンルと配送希望周期を指定する　→園芸／2ヶ月

オンラインサービスを中心とした図書館

◉オンライン：非接触・来館できない人へのサービス

インターネット・葉書を使用したレファレンスサービス
・インターネットでのレファレンス
zoomやGooglemeetを用いたオンライン対面式のものや、ホームページから質問を受け付けられるようにする。
zoom、Googlemeet
Googleフォームを設定し、事前予約制をとる。オンラインだが対面式で親しみ・温かみのある対応ができると考えられる。
ホームページ
同じくGoogleフォームを設定し、質問を受け付ける。質問者にはメールで図書館員から回答を送信する形をとる。

また、その日のzoomの予約状況や質問の受け付け状況によって、オンライン対応の図書館員・オフライン対応の図書館員の人数割を考える。
多くの人に利用してもらえるように図書館のホームページで目につきやすいように大きく表示しする。それに伴って、レファレンスが得意な図書館員を沢山導入し対応力をあげる。

・葉書
手書きで親しみをもったサービスの提供ができる。インターネットが苦手な高齢の方も使えるという利点がある。
利用する人は限られると考えられるため、回覧板に「質問を受け付けています」というお知らせとともに葉書を何枚か入れてもらったり、公共施設など人が集まるところに置かせてもらう。

図書館からの発信
・Twitter、インスタグラムでの発信
Twitterのアンケート機能で利用者に対するアンケート（どんなジャンルの本が気になっていますか？図書館で気になっていること、不便なことはありますか？など）をとり、運営の参考こさせてもらう。
インスタグラムではストーリーの機能を使い、「今日の図書館の様子」などをアップする。また、少ない箇所でもいいのでインスタ映えするようなスポットを作り、若者にも来てもらえるような図書館にする。
発信力を強め、集客に繋げるために、他にもFacebookなどの利用者が多いツールでアカウントを作り、図書館のことを配信していく。

図書の配送サービス
交通の便が良くなく、なかなか図書館に直接来ることができないという人のために、貸出図書の配送サービスを実施する。ヤマトや佐川急便などの運送会社に委託して提携したサービスを行う。
配送で貸出した図書は同時送付した図書が傷つかないような専用の紙袋等で送り返してもらう。利用者からの本の返却は「本を紙袋に入れてポストにいれるだけで大丈夫!」という形を取って気軽に利用してもらえるようなサービスを目指す。

◉オフライン：来館者向けのサービス

コロナ禍に対応して
「密を作らない」という点から、室内だけでなく屋上でのスペースを設け、本を読むだけではなく憩いの場としても使ってもらえるような作りにする。
本用の消毒器を利用者が任意で利用できるように設置する。また、セルフレジをいくつか配置して、人と人が接触しない貸出サービスも充実させる。機械が苦手な方やお年寄りのために図書館員が貸出手続きをするカウンターも常時設置する。

その他のサービス
オンラインサービスの対応から外れたレファレンスの得意な図書館員が、「図書の探し方」や「効率的な情報の調べ方」などのレクチャーをする。

タイトル『図書館とITの融合withコロナ』
詳細説明 情報技術を積極的に取り入れ、更に利便性が高く、利用者に身近な図書館を実現。具体的な方法を以下に示す。

ドローンによる無人宅配
外出の難しい高齢者や、子育てに忙しい親でも、自宅にいながら資料を手に取れる、非接触型サービス。人件費の削減も期待できる。

ポイント制度
狙い 図書館利用者の増加、再利用促進

概要
マイナンバーカードを利用者カードとして利用し、ポイントカード機能も付与する。カードに埋め込まれているＩＣチップを活用し、専用リーダーにかざす事で、貸出・返却手続きができる、非接触型サービス。

貯め方
- 図書館利用（貸出冊数に応じてポイント付与）
- 催し物への参加（おはなし会など）
- 図書紹介（感想文投稿、帯紙やＰＯＰ作成など）

用途
- 景品贈呈（図書館オリジナルグッズ）
  景品例：栞、ブックカバー、読書ノート、文房具、エコバッグ
- 貸出冊数、予約可能資料数の増加
- 資料の貸出期間延長

スマートフォンアプリの配信
鼻歌検索機能
スマートフォンに搭載されたマイクを活用し、曲名が分からなくても、鼻歌や口笛から、類似したフレーズが含まれる楽曲を検索。更に、その楽曲が収録された視聴覚資料を検索でき、そこから予約可能。

バーコードスキャン機能
スマーフォンのカメラ機能を活用し、書籍のバーコードスキャンを行う。スキャンにより、ＩＳＢＮを入力する手間なく、迷う事なく、目的の蔵書を検索する事が可能となる。また、マイページの本棚リストへの書籍の追加がスピーディーになる。

ジャケット検索機能
スマートフォンのカメラ機能を活用し、イメージ検索を行う。カメラで書籍の表紙を認識させ、類似した資料を検索できる。また、あらかじめ書影画像を準備し、専用検索システムにアップロードする事で、類似した資料を検索できる。

おすすめ資料表示機能
レコメンドエンジンを導入し、利用者が閲覧したり、実際に予約したりした資料をもとに、関連性があり、利用者が興味を示しそうな資料を紹介する。取得したデータを元に、一人ひとりのニーズに合った資料を提案する事が可能。

遊べるコンテンツ
ＹＡ層へ向け、図書館に少しでも親しみを持って貰える様、きっかけ作りとして、ゲームコーナーを設ける。
企画例
- フローチャートによるおすすめ本診断
- 今日のラッキー本占い
- 図書館クイズ・検定

チャット機能（レファレンス申込・ＦＡＱ自動応答）
アプリにチャット機能が実装され、レファレンスを申し込める。敷居の高かった従来の申し込み方法（カウンターでの対面、電子メール、電話、ＦＡＸ、郵便）の他に、ＹＡ世代に馴染み深いチャット型式を用いる事で、若者の図書館利用を促進する。更に、非接触型サービスの為、感染の予防が可能。
また、利用者のよくある質問に対し、チャットbotを導入して自動返答させる事で、職員の負担軽減が期待できる。更に、電話と異なり、問い合わせのハードルが低く、時間に関係なく利用できる為、利用者はいつでも気軽に問い合わせ可能。この様に、利用者が安心して相談できる環境を整える事で、利用者の満足度向上が期待できる。

Ｉｏｔの導入
資料にセンサーを埋め込み、利用者のデバイスと紐付け、貸出履歴の管理を行う。返却日が近くなったり、延滞していたりすると、利用者に音声でお知らせする、「アラート機能」がある。

蔵書点検の高速化
『カメレオンコード』の導入
株式会社シフトの非接触型画像解析技術『カメレオンコード』を導入し、蔵書点検の高速化を行う。また、導入によって資料への接触を最小限にし、感染予防を図る。

ドローンによる蔵書点検
千葉県船橋市は、2020年3月12日から31日にかけ、西図書館にて、京セラコミュニケーションシステムの『AI蔵書点検システム』と、株式会社Liberawareの産業用自動巡回型小型ドローン『IBIS』を連携させた、蔵書点検実験を行っている。この技術を導入し、図書館内に小型ドローンを飛ばして本の背表紙をカメラで認識させ、点検業務の効率化と職員の負担軽減を図る。

パワードスーツの導入
パワードスーツの着用により、職員の身体への負担軽減を図り、作業効率を向上させる。

図書館イベントのリモート化
『おはなし会』などの催し物を、インターネット上でライブ配信する事で、イベントを中止する必要がなくなり、かつ、感染の予防が期待できる。参加者も、安心してイベントを楽しむ事ができる。

テレワーク時代に対応した多目的図書館

新型コロナウイルスの影響で、人が集まることを避け、出社せず自宅で仕事をするテレワークが普及し始めています。また、都市部に人口が集中しすぎているため、通勤・通学の満員電車や駅の混雑が毎日発生し、感染症対策の観点のみならず、心理的身体的な負担も大きいと思われます。そのため、アフターコロナ時代には業務のオンライン化が大企業のみならず、中小企業でも進むことが考えられます。テレワークができるようになれば首都圏にある会社から離れたところからオンライン上で仕事をできるようになります。

しかし、テレワークに適した環境を見つけるのは容易ではありません。自宅でテレワークをする場合は家族の話し声や物音が集中の妨げになります。カフェでは、長時間滞在することはできないし、周囲に不特定多数の他人がいる中ではオンライン会議ができないのでテレワークには適していません。それゆえ、新静岡県立中央図書館は従来の資料が豊富にあるという強みに加え、テレワークに適した環境を提供することが求められるとともにそれが大いに可能であると考えます。その実現のために、従来の設備に加え以下のように防音性のあるキャレルの設置・Wi-Fi 環境の整備・飲食スペースや自動販売機の設置を・託児所をすることを提案します。

１、防音性の優れたキャレルの設置

キャレル内は、他人の物音や話し声が聞こえない環境なので最大限に仕事に集中することができます。また、防音性を高めることでテレワークでは電話やオンライン会議で、会議の音声や社内情報が外に漏洩することが防止できます。また、これによって図書館で学習したい学生にとっても便利になるでしょう。

２、Wi-Fi 環境の整備

テレワークには通信環境の整備が不可欠です。Wi-Fi を整備し通信環境が整えれば、オンライン会議や情報検索が滞りなく行えます。

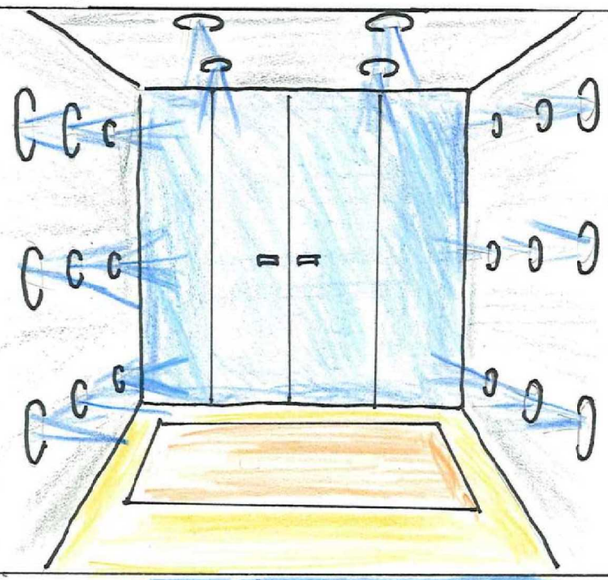
３、飲食スペースや自動販売機の設置

テレワークをする場合、一日中図書館に滞在する場合があると思われます。図書館内に昼食や軽食をとることができるスペースをつくり飲み物だけではなく軽食を買える自動販売機を設置すれば、昼食のためにわざわざ図書館を離れる手間がなくなります。また、感染対策のために席の配置の工夫や消毒液の設置が必要です。

４、託児所の設置

小さな子どもにもつ親の場合、テレワーク中に子どもがそばにいると集中の妨げになります。また小さな子供は騒いだり泣いたりするので、図書館に連れていくのに遠慮があると思われます。そこで託児所のような子どもを安心して預けることができれば、図書館で親が集中してテレワークに取り組むことができます。

無人デジタル図書館



図書館に入る前に自動で
全身を消毒する機能がある
消毒が完了すると入口が開き
中に入り受付へ

○無人受付
マイナンバーカードを
スキャンして本人確認後
受付が完了する。同時に顔認証が
登録される。
読書ができる部屋へ案内される。

○読書スペースが個室
部屋の前に立つと
顔認証により、ドアが開き
部屋に入る。

○本のデジタル化
ジャンルを選択して読みたい本を検索する
モニターで読書ができる機能となっている。
また、スマホをかざして貸出日数を選択すると
本のデータが落とされて、持ち帰って読書することの可能。
※返却不用システム
(貸出日数が過ぎると本のデータが自動削除される。)

6 無人デジタル図書館／待井淑貴（静岡産業技術専門学校）